

小学校サブコース
卒業研究指導教員に関する情報

領域	ページ
教育臨床領域	2～5
国語教育領域	6～8
社会科教育領域	9～12
数学教育領域	13～15
理科教育領域	16～19
音楽教育領域	20～22
美術教育領域	23～25
保健体育領域	26～28
技術教育領域	29～29
家政教育領域	30～32
英語教育領域	33～34

教育臨床領域

教員名	江上 園子（えがみ そのこ）
専門分野	発達心理学 人が誕生してから（胎児期から）、個人がもつ気質と周囲の人間関係の影響を受けてどのように発達していくのか、研究する学問です。近年は“人は一生涯発達する”という意味を込めて「生涯発達心理学」と呼称することもあります。
担当している主要な授業	発達と学習（1年生後期） 発達心理学（1年生・2年生後期） 心理学調査法（3年生前期）
卒業研究に関する情報	これまで以下のようなテーマで研究指導を行ってきました。 ①親子関係の特徴やその影響 ②青年期の恋愛や夫婦関係 ③きょうだい関係の変遷や性質 ④乳幼児の向社会的行動の発達 研究手法としては、質問紙・面接・実験・観察いずれも可能です。

教員名	尾川 満宏（おがわ みつひろ）
専門分野	教育社会学（狭義の専門は、若者の“学校から社会への移行”に関する研究） 学校内外の幅広い教育事象について私たちが持つ「当たり前」や「常識」を徹底的に問い直す学問です。教師はどのように「できる子」と「できない子」を生み出すのか。子どもへの愛情や期待は、いかなる“大人の都合”の副産物なのか。学校教育で人は何を得、何を失うのか……。資料収集や調査分析から浮き彫りになる教育という営みの光と影に、真摯に向き合うマインドが特徴です。
担当している主要な授業	キャリア形成支援の教育臨床学（2年生前期） 特別活動論（2年生後期） 生徒指導・進路指導論（3年生前期）
卒業研究に関する情報	学級の間関係や教師のキャリア、生徒文化、進路形成、若者と政治、家庭教育……。どんな研究テーマでも私たちの日常や認識を問い直すことで、今後の教育や社会のあり方をデザインするのに必要な「知」と、他者に伝え議論するのに必要な「技」を高めます。とくに、学校にかかわる事象を扱うときは学校内部の論理だけでなく幅広い社会の文脈で考えたり、思いもよらない視点からアプローチしたりして、自身の学校観、教師観、子ども観、社会の見方を鍛えます。これらの作業を通じて、教師や大人として教育にどうかかわるか、そのスタンスをじっくりと考え、卒業研究にまとめたいという学生を歓迎します。

教員名	梶原 郁郎 (かじわら いくお)
専門分野	<p>(1) デューイ研究：デューイの民主主義社会論と教育課程論との内的関係を認識形成論の水準で把握していく作業を行っている。これは、デューイの主著『民主主義と教育』を体系化・組織化する課題である。</p> <p>(2) 教授学習過程研究：(a) 先行実践事例を収集・検討して授業内容・方法を構想する、(b) 授業内容が児童生徒の内容理解をどの程度援助できたのかを把握するための評価問題（事前事後質問）を作る。(c) 授業記録（教授学習の記録）と事前事後質問とを踏まえて省察する。</p>
担当している主要な授業	道徳教育指導論（2年生後期）、教育の課程と方法（3年生前期）、カリキュラム論（3年生前期）
卒業研究に関する情報	<p>将来教師となるゼミ生は(2)の授業づくりに取り組んでいる。半年ほどかけて授業内容を入念に考えて作り、実践・省察を行っている。これは、暗記してきた教科内容を学生自身が学び直す過程でもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(2016年度卒論)「小学校生活科における知識の活用を保障する授業内容の構想と実践－頭骨を通じて動物の体のつくりと暮らしについて学習する－」 ・(2016年度卒論)「自然素材を加工する総合学習内容の構想と実践－砂糖づくりから地理学習へと展開する授業内容－」

教員名	相模 健人 (さがみ たけひと)
専門分野	<p>【臨床心理学】：カウンセリングに限らず、教育相談や学校生活に広く関連する事象を研究対象として取り扱っています。専門は Solution-Focused Brief Therapy という問題がある中でもほんのちょっと良いとき（例外）を挙げたり、目標を作成して目指すカウンセリングを行っています。近年は WOWW アプローチに関する研究を多く行っています。</p> <p>これまでの卒業論文は学校現場での連携、資源、問題への対応、回復過程などを扱っています。ただし原因追及を行う研究は不得手です。</p>
担当している主要な授業	教育相談論（2年生前期） 臨床心理学（1年生・2年生前期、隔年開講） カウンセリング特別演習（4年生、通年授業）
卒業研究に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の卒業論文のテーマとしては、「大学生の友人関係における役割行動期待と対人的疎外感、同調行動の関連」「青年期の友人関係における関係性高揚及び過剰配慮と抑うつとの関連」「大学生サークルリーダーのリーダーシップに関する研究-過去の経験との関連において」「キャリア教育による自己の変化と今後の課題」 があります。 ・インタビューを行い、それを分析する質的研究やアンケートを元に分析する量的研究を行っていますが、分析方法については自習していただくようお願いいたします。

教員名	杉田 浩崇（すぎた ひろたか）
専門分野	<p>【教育哲学・教育思想史】他者であるはずの子どもを理解するとはどういうことか、子どもにとって「経験」はどのような意味を持つのかといった問いは、ロックやルソー、デューイなど、過去の教育思想家が真剣に考えたものです。彼らの教育思想を読み解いたり、哲学的に思考したりすることで、「教育」を語るときに自明となりがちな前提を問い直す作業を得意としています。</p> <p>【道徳教育】学校で行われている道徳授業のあり方や道徳性の発達だけでなく、道徳的な行為の理由づけをめぐる話し合いの作法や、各教科でよりよく学ぶために必要な徳（柔軟さや謙虚さ）の育成についても研究しています。</p>
担当している主要な授業	<p>教育原論（2年生前期） 教育実践の倫理学（3年生前期）</p> <p>道徳教育指導論（2年生後期：中等教育コース対象）</p>
卒業研究に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・教育哲学・教育思想史の分野を学びたい人は、テキストをじっくりと読んで考えることが求められます。〈いま〉の学校に囚われることなく、教育や人間形成を広い視点で捉えてみたい学生さんを歓迎します。ひとつのテキストをじっくり読むことで、核となるような見方を獲得することを目指します。 ・道徳教育の分野を学びたい人は、テキストを読むだけでなく、学校に足を運び実践的な研究を行うことが推奨されます。教科化で大きく変わろうとしている道徳教育について一緒に考えてくれる学生さんを歓迎します。

教員名	山田 誠（やまだ まこと）
専門分野	<p>【生涯教育・生涯学習】従来、教育、学習といえば、子ども期と学校を中心に考えられてきました。しかし今日、急激な社会変化や人間の生涯発達の理解等を背景に、生涯を通じて“誰もが”、“いつでも”、“どこでも”主体的に学習することができ、その成果を生かすことのできる社会づくりが求められています。人間の学びとその支援としての教育を、生涯にわたるものとして、かつ、あらゆる生活関連におけるものとして捉え直し、理論的・実践的に再構築していくことが本分野の重要課題です。そして、教育・学習をめぐる多様な事象に対して、子どもの学びとともにおとな（保護者や教師を含む）の学びを、また、学校のみならず家庭や地域、職場等での学びを、さらにそれらの学びへの支援を広く視野に入れ、関連付けて探究しようとするのが、本分野の特質といえます。</p>
担当している主要な授業	<p>教育制度論（1年生後期） 子どもと大人の学びの支援（2年生後期）</p>
卒業研究に関する情報	<p>生涯にわたり学習するための基礎的能力や意欲・態度の育成は、学校教育の重要な目標であり、学校・家庭・地域の連携・協力も必要とされています。教師を目指す上で、またそれ以外の進路でも、きっと役立つテーマがあるでしょう。本分野の研究も、学習とは、教育とは、人間とは、という根本的問いにつながります。ともに考えましょう。〈過去の例〉保幼小連携／マイノリティに寄り添う教育／心の居場所づくり／子育て支援／余暇とレジャー／山村留学／公民館</p>

教員名	富田 英司（とみだ えいじ）
専門分野	（教育心理学）教育心理学は教育について心理学的なアプローチをする学問です。私が特に専門としているのは、人と人が交流しながら学ぶ過程の分析や協同プロジェクトを通して人がどのように成長するのか実践を通して明らかにしていくことです。人は他者とともに協力しながら生き、成長しますので、一人ひとりを個別にどれだけ研究したとしても、分かることは限られています。むしろ、人間の心の働きを知るためには人々が協同するプロセスを分析することが重要です。これらの研究は、現在、小学校から大学院まで盛んに取り組まれているアクティブ・ラーニングと深く関係しています。
担当している主要な授業	教育心理学（2年生前期） 教育の課程と方法，生徒指導論（3年生前期），心理学実験法（3年生後期）
卒業研究に関する情報	当研究室では、学生の皆さんや関連の方々の協力を得て、小学生や中学生、留学生等を対象とした学習支援プロジェクトを進めています。教育心理学や発達心理学、社会福祉、経営学等、様々な専門知識とそれぞれの経験や能力を持ち寄って、アクション・リサーチという研究手法で、地域の課題の解決や問題の軽減に少しでも貢献できるよう取り組みを進めています。当研究室では、このアクション・リサーチに取り組み、教育実践への取り組みを通して得られた知識やノウハウを卒業論文として執筆するよう指導しています。

教員名	白松 賢（しらまつ さとし）
専門分野	教育臨床学 教育学や社会学の理論をもとに、現代の学校のあり方や教育問題、教育の方法のあり方を研究しています。また学級経営（児童生徒との信頼関係や人間関係づくりなど）について、小学校を中心に研究をしています。
担当している主要な授業	教職基礎論（1年生前期）
卒業研究に関する情報	これまでの卒業生では、一人ひとりの個を尊重する学級づくりのあり方や集団でやり抜く力（社会情動的スキル）の育成などをテーマにしています。 また社会学の領域では、「ギャルママの誕生」「おたくの社会史」「マンガにあらわれた不良」といったテーマを選んでいる人もいます。 基本的に教育学領域の研究テーマを選ぶ人には、実際に学校に行って観察や子どもたちと関わりながら、卒業研究をしてもらっています。社会学領域のテーマを選ぶ人には、社会事象を多角的に分析する力を身につけてもらうようにしています。 ゼミでは、大学院の学生と一緒に勉強することも多いですし、学校の先生と一緒に勉強する機会も大切にしています。

国語教育領域

教員名	東 賢司（ひがし けんじ）
専門分野	書写・書道教育 小学生や中学生が日常で書いている文字の研究を行います。 平仮名と漢字（楷書と行書）を対象とすることが基本です。
担当している主要な授業	初等国語（2年生前期） 書写・書道概説（3年生後期） 書写演習1（4年生前期） 書写演習2（4年生後期）
卒業研究に関する情報	考えられる卒業研究のテーマ 小学生の平仮名の実態に関する調査研究 小学生の常用漢字の習得に関する問題点 中学生の漢字の行書化に関する問題と解決方法 漢字の歴史と語源の研究 筆順と文字の整え方の整合性と矛盾 ・ ※文字は日常的に使用するものです、歴史を踏まえ現代を考えます。

教員名	太田 亨（おおた とおる）
専門分野	漢文学 中国文学が日本の中世にどのように受容されていたかを研究しています。また、漢文教育のあり方に関して、教材研究・指導の要点等について考察しています。
担当している主要な授業	中国古典概説（2年生前期） 中国古典作品選読（2年生後期） 中国古典研究（3年生前期）
卒業研究に関する情報	中国古典、日本漢文が主な資料になります。テーマを決めた後、それに関する資料を読み込んでいきます。読解を通じて、詩人・文人のものの見方や考え方、作品・資料の価値を追究していくことになります。

教員名	佐藤 栄作（さとう えいさく）
専門分野	日本語学（国語学） 国語教育の中の日本語学（国語学）という領域です。日本語も言語の一つです。言語が共通して有する性質・しくみや日本語ならではの特性（学習指導要領の「国語の特質」）を知ることは、小学校教員にとって極めて重要です。
担当している主要な授業	日本語概説（1年生前期） 初等国語（2年生前期） 日本語研究（3年生前期）
卒業研究に関する情報	研究テーマは、日本語の発音、文字・表記、語法・言葉遣い、語と語義、地域差・世代差、日本語の歴史など。より具体的には、例えば「現代仮名遣いの問題点と習得」、「異字同訓と国語力」、「ことわざ・成句の意味の変化」など。「日本語概説」「初等国語」をぜひ受講してください。

教員名	青木 亮人（あおき まこと）
専門分野	【専門】日本近現代文学・文化 【内容】教育学部では「内容学」と分類される分野で、明治～平成時代の小説や詩、短歌、俳句を文学研究として分析し、解釈する。文学だけでなく、演劇や映画、アニメ、音楽等の諸文化も研究対象とする。
担当している主要な授業	・日本近代文学概説（2年生前期） ・日本近代文学研究（3年生前期） ・日本近代文学演習（3年生後期）
卒業研究に関する情報	【これまで扱った卒業研究テーマの一例】 ・芥川龍之介「秋」に見る市民社会と作家経歴に関する文学研究 ・中島敦「山月記」の「変身」の意義に関する文学研究 ・村上春樹「ノルウェイの森」の女性キャラクターに関する研究 ・尾崎放哉の自由律俳句に関する文学研究 ・スタジオジブリ「千と千尋の神隠し」のエンディング研究 ・アニメ「アンパンマン」のキャラクター造型と作家思想に関する研究 ・「新世紀エヴァンゲリオン」テレビ版とマンガ版の差異に関する研究 ・ディズニーアニメのプリンセス像とアメリカ社会の女性像に関する研究

教員名	小助川 元太（こすけがわ がんた）
専門分野	日本古典文学 担当は古代から近世までの日本の古典文学ですが、専門は主に中世（鎌倉時代から安土桃山時代まで）の軍記物語や説話文学です。具体的には『平家物語』の異本『源平盛衰記』や、『八幡愚童訓』、『塙囊鈔（あいのうしょう）』を中心に研究を進めており、最近では中世から近世にかけての武家の文化と文学との関係に関心を持っています。
担当している主要な授業	日本芸能史（1年生前期）日本古典文学概説（2年生後期） 日本古典文学研究（3年生前期）日本古典文学演習（3年生前期）
卒業研究に関する情報	これまでのゼミ生の卒論テーマを以下にいくつか挙げます。 『日本古典文学における梶原景時考—平家物語を中心に—』 『『義経記』研究』 『『平家物語』における一の谷合戦考』 『『予陽盛衰記』研究』 『御伽草子『木幡狐』の研究』 『愛媛県における衣通姫伝承の研究』 『中世における源氏物語の享受—源氏小鏡を用いて—』

教員名	中西 淳（なかにし まこと）
専門分野	専門分野は国語科教育学です。小学校・中学校・高等学校における国語科教育のあり方を研究する分野です。最近では特に、俳句教育のあり方を、国際的視野のもとに研究しています。
担当している主要な授業	国語科教育法Ⅰ（2年生前期）、初等国語科教育法（2年生後期）、 国語教育研究Ⅰ（3年生前期）、国語科教育法Ⅳ（3年生後期） 国語教育演習（4年生前期）
卒業研究に関する情報	国語（言葉）を学ぶことの意味や、その授業のあり方について深く考えてみたいという方を対象としております。例えば、国語の学力とは何か、文学をどのように教えるとよいのか、話す・聞く力をつけるためには何が大切か、作文にどのような評語を入れるとよいのか、国語科教育の歴史はどのようなものだったのか、海外の国語教育はどのようになされているのか等に興味を持っている方です。これまでの卒論題目は以下の通りです。「小学校における赤ペン指導の研究」「小学校における話し合いの学習指導の研究」「小学校における俳句学習指導の研究」「国語科における演劇的要素を取り入れた学習指導の研究」「絵本を用いた小学校国語科学習指導の研究」等。

社会科教育領域

教員名	中曾 久雄（なかそ ひさお）
専門分野	<p>憲法学</p> <p>（その説明）</p> <p>アメリカにおける同性婚の問題、新しい人権、夫婦同氏、非嫡出子といった家族に関する憲法上の問題を研究している</p>
担当している主要な授業	法学1、政治学2（2年生前期） 法学2（3年生前期）
卒業研究に関する情報	<p>卒業研究は、憲法学に限らず、ひろく法的な問題を扱ってもよい。</p> <p>受講生の関心に応じてテーマを設定し、判例や論文の読解といった極めてオーソドックスな方法で論文の完成を目指す。</p>

教員名	森 貴子（もり たかこ）
専門分野	<p>西洋史学</p> <p>西洋史学とは、西洋（おもにヨーロッパやアメリカ）の歴史を研究する学問です。ただし、研究対象となる時代や地域についてはずいぶんと幅があります（私自身の専門は中世初期のイングランドです）。西洋の歴史や文化を学ぶことで、西洋文明の影響を強く受けている現代社会とはどんな社会なのか、またそもそも歴史とは何か、我々はなぜ歴史を必要とするのかについて考え、理解を深めることができます。</p>
担当している主要な授業	外国史1（1年生前期） 外国史2（3年生後期） 外国史3（4年生前期）
卒業研究に関する情報	<p>西洋史学ゼミでは、週一回、各人の卒論テーマに沿った文献を講読し、学びを深めていきます。一例として、卒業生の卒論テーマを紹介しますと、中世の農村（所領形成）と都市（暴力と秩序維持）、近世ドイツの魔女裁判（社会的背景と実態）、死刑執行人の心性、近・現代におけるフランス革命の位置づけ、近代イタリア統一とアイデンティティ、イギリスにおける教育制度の変遷、女性と労働、などとなっています。</p>

教員名	魁生 由美子（かいしょう ゆみこ）
専門分野	社会学 とくに社会問題の社会学、福祉社会学を研究しています。 ・大阪市生野区等、在日コリアン集住地域において、高齢化する一世や二世を対象として行われている民間のケアサービスに関する研究、 ・松山市のような「非集住地域」における在日外国人のコミュニティに関する研究等
担当している主要な授業	社会学1（2年生後期） 社会学2（3年生後期） 社会学3（4年生前期）
卒業研究に関する情報	履修生といっしょに問題関心の所在を探りながら、テーマ設定、文献調査、場合によってはフィールドワーク、卒業研究執筆、最終報告まで指導しています。 近年の優秀論文 「『性的マイノリティ』理解—レインボーな社会を目指して—」 「子どもの貧困と教育格差—教師にできることは—」 「コミュニティの在り方—ケアの視点から—」

教員名	鴛原 進（おしはらすすむ）
専門分野	社会科教育 （生活科，社会科，地理歴史科，公民科をはじめとした社会認識を形成していく教育の理論と方法，指導のしかたなどについて研究している。）
担当している主要な授業	初等生活科教育法（2年生前期） 初等社会科教育法（2年生後期） 社会科（公民科）教育法1（2年生後期） 社会科（公民科）教育法2（3年生後期）など
卒業研究に関する情報	最近指導した卒業研究の題目は次のようなものがある。 子どもの主体性を引き出す社会科教育の在り方について —アクティブ・ラーニングの批判的考察を通して— 主権者意識の形成と社会科教育の在り方—言語活動の充実との関連を通して— 国際バカロレア・プログラムとの比較から考える日本の大学入学者選抜 小学校における社会科と図画工作科の関連による歴史学習の提案 —「『タンギー爺さん』の謎を解き明かせ！」の開発を通して— キャリア教育を進める社会科の授業とは—市民的資質の育成を基にして—

教員名	松野尾 裕 (まつのお ひろし)
専門分野	経済学 現代の経済社会（国際経済を含む）の仕組みを理論的及び実証的に研究する。
担当している主要な授業	経済学 1（2年生前期） 経済学 2（3年生前期） 経済学 3（3年生後期）
卒業研究に関する情報	経済学の授業をうけて興味を持ったことをテーマにして論文を作成する。 平成 28 年度卒業生 「縁が紡ぐ豊かな社会について」 「流行と消費者行動の関係性—地方活性化への期待—」 「子どもの貧困における教育格差について」 平成 27 年度卒業生 「子どもの教育格差」 「過疎地域における経済の活性化について」 平成 25 年度卒業生 「ディーセント・ワークについて考える」

教員名	川岡 勉 (かわおか つとむ)
専門分野	日本史 （日本中世、とりわけ室町・戦国時代の武家権力の構造や地域支配のあり方について研究している。中世伊予を中心とする地域史についても研究している。）
担当している主要な授業	日本史 I（2年生前期） 日本史 II（3年生前期） 日本史 III（3年生後期） 初等社会など
卒業研究に関する情報	最近指導した卒業研究の題目には、次のようなものがある。 宇喜多直家の動向—備前軍記からの再構築— 元禄期の社会と文化—その時代に生きた尾形光琳— 愛媛と水の歴史—文政 6 年南吉田水論からみる— 日本史学習における「地域史」の可能性—今治の変遷を通して— 南京事件から考察する日本の近現代歴史教育のあり方 レトロブームに関する—考察—昭和 30 年代を中心に—

教員名	張 貴民（ちょう きみん）
専門分野	人文地理学 <p>地理学は地表面の諸事象の地域的特色や分布の法則を研究する科学です。人文地理学は自然地理学とともに系統地理学を構成し、地表面における人間の存在や活動のあり方を、集落、産業、交通、人口等の事象別に考察し、その地域的特質や空間的構造を明らかにしようとする学問です。</p>
担当している主要な授業	地理学概説（地誌を含む）（1年生後期） 人文地理 I（2年生後期） 世界地誌（3年生後期）
卒業研究に関する情報	卒論研究では、学生各自で作成した研究計画に従って、能動的に研究活動を取り組んでもらいます。具体的に、学会誌の研究論文などを講読し、人文地理学の研究動向を把握します。発表やディスカッションを通じて、主体的に研究活動を行うための能力を向上させ、卒論の作成を通じて、人文地理学の研究手法などを習得し、直面する様々な地域問題を解決する能力を高めます。フィールドワークが好きな人はぜひ相談に来てください。

教員名	川瀬 久美子（かわせ くみこ）
専門分野	自然地理学・地形学（河川地形・海岸地形の発達史） <p>平野や海岸の地形がどのように形成されたのか、また自然や人間の力でどのように変化しつつあるのか、地図や空中写真の分析、地形測量や地形を構成する堆積物の分析などから明らかにする学問です。地形の特徴は農業や集落の立地など人間生活のほか、洪水や高潮、地震災害の被災程度にも関係しており、地形学は総合科学としての地理学を支える基礎的な研究分野の一つです。</p>
担当している主要な授業	自然地理 1（1年生後期） 自然地理 2（3年生前期） 日本地誌（3年生後期） 地理学野外実験（隔年開講・集中講義）
卒業研究に関する情報	地理的なものの見方・考え方を生かして探求する研究であれば、自然的事象でも社会的事象でもテーマ設定は自由です。関心をもったテーマについて、文献研究（書籍や論文の講読）を行なって具体的な研究目的を定めたあと、現地観察や地形測量・聞き取り調査など、実際に地域に足を運んでオリジナルなデータを取得し、分析を進めます。地図や統計でデータをわかりやすく示す力、知りたいことをわかりやすく相手に伝えて交流する力、多角的に物事を捉えて根拠をもとに議論を進める力、などの育成を目指しています。 最近の卒業研究テーマ：西条市の地滑り地形、若者の方言の使い分け、愛媛県の若者の農業就労、道後地区の地域活動、地域学習のための教材研究など。

数学教育領域

教員名	平田 浩一（ひらた こういち）
専門分野	幾何学 図形にかかわる領域を研究対象にしています。最近は特に和算（江戸時代の日本の数学）の図形問題の研究に力を入れています。
担当している主要な授業	幾何学概論（1年生後期） 幾何学1（2年生後期） 幾何学2（3年生後期）
卒業研究に関する情報	ここ数年間次のようなスタイルで卒業研究を行なっています。 (1) 3年生のゼミで、和算に関する入門書を一緒に読み、中学生・高校生にも分かる内容の和算の問題を勉強します。 (2) 4年生の卒業研究では、和算書『精要算法』の図形問題にチャレンジします。（1問解くのに1~2ヶ月かかることもあります。） (3) 卒業研究の成果は愛媛和算研究会でも発表します。

教員名	観音 幸雄（かんおん ゆきお）
専門分野	非線形偏微分方程式の解構造に関する研究 物理現象や、人口の推移などの自然現象の多くは、時間と空間に関する数学的なモデル（偏微分方程式）によって記述されています。私は、このようなモデルの中で、特に、競争関係にある2種の生物の個体群密度の動態を記述するモデルに興味をもち、微分積分や数値計算などを用いて、そのモデルの解構造について詳しい解析を行っています。
担当している主要な授業	解析学概論（2年次後学期）、確率統計学概論（2年次前学期） 解析学1（1年次後学期）、解析学2（3年次前学期） 確率統計学1（3年次前学期）
卒業研究に関する情報	自ら課題（問題）を見つけ、長期間に及ぶこともあるかもしれませんが、じっくりと考えて、その課題を解決していくことは良い卒業研究へとつながると思います。私はそれにつながる相談・手伝い（基礎学力の養成を含む）をできるだけ行いたいと考えています。

教員名	安部 利之（あべ としゆき）
専門分野	代数学 数学の分野で方程式やベクトルに関わるのが代数学です。その根本には「群、環、体」があって、私の専門分野は、これらの延長にある頂点作用素代数と呼ばれるものになります。
担当している主要な授業	線形代数Ⅰ（1年生前期） 代数学概論（1年生後期） 代数学Ⅱ（2年生後期） 代数学Ⅲ（3年生前期）
卒業研究に関する情報	私の専門は頂点作用素代数の表現論ですが、卒業研究ではおそらく扱いません。卒業研究では群、環、体に関わる基本的な事柄について学んだあと、理論以外にもパズルやゲームなどを数学的に扱う研究も考えています。 数学の学習は積み重ねなので、毎回のゼミで学んだことを復習し、その上で新しいことを学ぶことで、数学的知識をより豊かで確かな物にしていきます。自分自身が「わかった」となるまで試行錯誤を繰り返し、根気強く研究していきましょう。

教員名	吉村 直道（よしむら なおみち）
専門分野	○ 数学教育学 「コミュニケーション」「社会的相互作用」「社会的構成主義」をキーワードに、算数・数学の授業構成について研究／教育しています。算数・数学の授業において、授業参加者たちがどのようにディスカッションしながら、算数・数学を構成し練り上げていくか、客観性の共有過程を記述・分析し、学習者が主体的に参加・学習する授業づくりを目指しています。また、そのような活動を通して、学習者それぞれの算数・数学の学習理解を伸長させると同時に、ふさわしい情意的変容があらわれるよう研究をしています。
担当している主要な授業	算数数学教育演習Ⅰ（2年生前期）、初等算数（2年生後期）、初等算数科教育法（3年生前期）、算数数学教育論（3年生前期）、算数数学教育演習Ⅱ（3年生後期）
卒業研究に関する情報	3・4年生のゼミ生全員で、夏休みに中学生を対象とした学習会を、附属小学校で年4回程度「土曜学習」を企画運営しています。加えて、3年生では、チームで研究に取り組み、4年生では、個人で、卒業研究に取り組みます。 <参考：H28年度4年生卒業研究テーマ> ○ノート指導の実際とノートの活用に関する研究 ○算数と数学のつながり・違いを考慮した中学校数学指導の考察 ○中学校図形分野における体系的な補助線指導についての研究

教員名	河村 泰之 (かわむら やすゆき)
専門分野	情報科学 (その説明) 情報科学は computer science のことで、計算機科学とも訳されます。元々は計算の理論から始まりましたが、コンピュータの発展により幅広い分野と関わりがあります。私は、その中でも離散組合せ問題や最適化問題などに関する実用的な応用が面白いと考えています。
担当している主要な授業	情報活用実践 (1 年生前期) データ分析 (2 年生前期) アルゴリズム (3 年生後期)
卒業研究に関する情報	コンピュータを使った卒研を考えていて、プログラミングに興味があるという珍しい人はぜひ来てください。 情報教育についても取り組んでいます。これまで、県内の学校で、プログラミング教育や情報モラル教育もしております。コンテストにも携わってきました。そのような活動に興味がある人も歓迎です。

教員名	原本 博史 (はらもと ひろし)
専門分野	代数学 代数学は、小学校以来慣れ親しんだ「足し算」や「掛け算」などを抽象的に扱うことで、様々な性質を調べていく分野です。これらの抽象理論を計算機の利用へ応用する分野の研究、特に「擬似乱数」の研究をしています。
担当している主要な授業	数学概論 (1 年生前期) 代数学 1 (2 年生前期) 代数学 4 (3 年生後期)
卒業研究に関する情報	これまでの卒業研究では以下の本を利用し数学・計算機の研究をしました。 1. J. ブーフマン, 暗号理論入門: 暗号理論の入門書で少ない知識で読めるようになっています。暗号のプログラムや安全性評価などを行いました。 2. R. ウォルターズ, 算数から始めよう!数論: 初等整数論の入門書。辺の長さや面積が整数である三角形を整数格子に配置する問題の基礎を扱いました。 3. 松本真, 有限代数の擬似乱数への応用: 日本発の世界標準擬似乱数 Mersenne Twister の理論を、線形代数をもとに解説してあります。 4. S. Dorichenko, A Moscow Math Circle: ロシアの小中学生向け数学問題集の英訳で様々な難易度や分野の問題が取り扱われています。パズルも豊富です。 5. D. Finston, P. Morandi, Abstract Algebra: 代数で扱われる話題を広く扱った本です。最初の 2 章分だけでもいろいろな応用が解説してあります。

教員名	大橋 淳史（おおはし あつし）
専門分野	化学，化学教育，科学教育 専門に関しては教育学部の教員紹介にくわしく紹介されています。
担当している主要な授業	修学支援システムで検索してください。 ※卒業研究を希望する学生は積極的に講義を受講することを期待します。
卒業研究に関する情報	卒業研究は，希望者との面談で内容を決定します。大まかな内容は以下の通りです。希望者はかならず相談してください。 (1)化学を主体にした教材開発および実践 これまでの研究例：ヨウ素溶液を使って飲料のビタミンC濃度を定める(酸化還元滴定)，植物に含まれるアントシアニン量とアントシアニンの色の変化を調べる(pH, イオン濃度)，金属結晶構造を学ぶ新たなモデル，クリーンエネルギーを簡単に学ぶ(メタン発酵)，食品添加物の効用を実感するなど各種教材開発 (2)科学教育事業による人材育成プログラム開発と評価 これまでの研究例：国立研究開発法人科学技術振興機構委託事業や愛媛県教育委員会以来授業などの実施による理系人材育成プログラムの開発と，子どもたちのプログラム参加による能力伸長評価など (3)認定こども園，幼稚園などとの地域連携 理科を中心とした地域連携事業をしています。

教員名	熊谷 隆至（くまがい たかし）
専門分野	有機化学（炭素を含む化合物，すなわち有機化合物を扱う化学であり，身の周りには多くの有機化合物が存在します） 化学教育
担当している主要な授業	初等理科 A（1年生後期） 理科実験 2（1年生後期） 化学（2年生後期） 化学実験（3年生前期）
卒業研究に関する情報	化学の中でも，有機化合物を中心に卒業研究を進めたいと考えています。 小学校の化学教材も取り扱いますが，卒業研究のテーマとしては，主に子どもたちが化学（科学）に興味・関心を持つための有機化学教材に関するものになりたいと思います。 過去に取り扱った例としては，匂いの教材化，クロマトグラフィーを用いた色素の分離，食用色素を用いた毛糸の染色，などがあります。 真面目に取り組む方を歓迎します。

教員名	佐野 栄（さの さかえ）
専門分野	地球科学（主に岩石鉱物学・地球化学） （その説明） 主に、岩石鉱物の化学組成等を用いて、その岩石の成因や形成過程を検討しています。
担当している主要な授業	理科実験 1（1年生後期） 地学（2年生前期） 地球環境学（3年生前期） 理科教育法実験実習 1（2年生後期） 地学実験（3年生前期） 地学演習 1（2年生後期） 地学演習 2（3年生後期） 地学野外実習（2年生後期・集中）
卒業研究に関する情報	固体地球を形成する物質、岩石・鉱物の化学組成等から、その起源や形成過程等を検討しています。しかしながら最近では、岩石・鉱物に関する卒業研究はあまり多く行っていません。最近では、土壌中にしみ込んだ人為的環境汚染物質の植物による浄化や環境モニタリングに関する研究、雨水や河川水の地球化学的研究等、に取り組む学生が増えています。また、地学分野の教材研究（天体や地質）についても卒論指導しています。

教員名	隅田 学（すみだ まなぶ）
専門分野	理科教育学、才能教育学 （その説明） 主に、子どもの自然認識と科学カリキュラム、理科授業、理科評価、科学才能教育、科学教育における文化や言語の影響等について研究を行っています。
担当している主要な授業	理科教育実践研究 1（1回生後期） 科教育法 I（2年生前期） 理科教育法 II・環境の指導法（2年生後期） 初等理科教育法・理科教育実践研究 2（3年生前期） 初等生活（3年生後期） 才能教育論（4年生前期）
卒業研究に関する情報	最近の国内外の研究動向を参考にしながら、教員が準備したテーマあるいは学生自身が強い関心を持つテーマについて、調査、分析、開発等を行います。 平成 28 年度の卒論・修論テーマ例 ・へき地における幼い子どもを対象とした通信型科学教育プログラムの開発 ・絵本を使った幼児向け統合的科学教育プログラムの開発 ・子どもからの難しい質問から考える豊かな発想力とその伸長 ・電気回路に関する小学生のイメージと科学理解の促進

教員名	中村 依子（なかむら よりこ）
専門分野	発生生物学 研究テーマ：動物の卵形成（研究材料：メダカ（アフリカツメガエル）） 「動物の卵は体の中でどのようにしてつくられるのか？」について、観察を中心に組織・細胞学的に明らかにしようとしています。
担当している主要な授業	理科実験Ⅳ，理科教育法（実験実習Ⅱ）（２年生前期） 教材生物実習（２年生通年） 生命科学（３年生前期）
卒業研究に関する情報	2014年「ツチガエルにおける生殖細胞分化過程の解析」 「アカヒレの初期発生の観察と教材的研究」 2015年「アフリカツメガエルの卵成熟に関する研究」 「メダカの卵形成に関する研究」 2016年「ヒメダカ初期発生の観察に関する研究」 「松山市における淡水産シジミ類の生態遺伝学的研究」 生物の専門的内容（実験系）から教材研究まで幅広く研究可能です。 毎日生き物の世話と実験をする学生さんを歓迎します！

教員名	中本 剛（なかもと ごう）
専門分野	物理学 物理教材の開発、磁性と熱電変換に関する実験的研究
担当している主要な授業	初等理科B（１年生後期）、物理数学（１年生後期）、理科実験3（２年生前期）、 物理（２年生後期）、理科教育法（実験・実習）2（３年生前期）
卒業研究に関する情報	各テーマの内容と過去の卒論題目は下記の通りです。 （１）「物理教材の開発」 目に見えない物理現象を可視化することができる教材の開発を行います。過去の卒業論文題目：磁場の三次元可視化教材の開発に関する研究、Visual Basicを活用した波動現象のシミュレーションとその教材化、強磁性体の磁区構造の観察に関する研究 （２）「磁性と熱電変換に関する実験的研究」 磁性体や熱電変換材料の実験的研究を行います。 過去の卒業論文題目：ゼーベックマイクロプローブ法による熱電材料のゼーベック係数分布測定、簡易型ゼーベック係数測定装置の開発に関する研究 希望する人は、ぜひ物理学関係の授業を履修してください。

教員名	細田 宏樹 (ほそだ ひろき)
専門分野	物理学, 物理教育 高校物理と大学初年次の物理学を対象とし, 主に力学分野について, 基礎・基本の学習内容の定着法, 学習指導法, 概念調査法の研究と開発を行っています。また, 小学校や中学校の学習過程に潜む“誤概念の助長”など, 物理概念の理解が阻害される原因の調査と分析, 及びその解決法も, 研究しています。
担当している主要な授業	物理基礎・理科実験 3 (2年生前期) 熱統計物理学・物理学演習 1 (2年生後期) 理科教育法(実験実習)2 (3年生前期)
卒業研究に関する情報	物理学の学問的立場から授業法や教材の研究と開発を行います。そして, 物理学の基礎・基本を習得するための“展開”の授業法や, その基礎・基本を活用可能な形式で“定着”させるための授業法について, 研究します。 研究の対象は, 小学生, 中学生, 高校生, 及び大学生です。小学校や中学校で行われている初歩・入門の知識を学ぶ授業における学問的“落とし穴”を調査・分析し, その初歩・入門の知識を自由研究や課題研究で活用可能な基礎・基本の知識に高める方法を探り, 研究対象者である児童, 生徒, 学生の学力向上だけでなく, 卒業研究生自身の物理概念形成と基礎学力向上も目指します。 卒業研究テーマの例: 高校「物理基礎」で学ぶ力学概念に関する研究(2016)

教員名	向 平和 (むこう へいわ)
専門分野	理科教育学・生物教育・環境教育 理科に関する教材開発や開発した教材を用いた実践的研究を, 生物的領域を中心に行っています。また, 環境教育に関する教材開発も行っています。 理科好きな子どもたちを増やせるように主体的に学べる教材開発を行っています。
担当している主要な授業	理科教育法 1・ESD 概論・理科観察実験研究 1・理科教育演習 1 (2年生前期), 理科教育法 2・環境教育実践演習・理科観察実験研究 2・理科教育演習 2 (2年生後期), 教材生物実習 (2年生通年), 初等理科教育法・理科教育実践研究 2 (3年生前期)
卒業研究に関する情報 (最近の卒業研究の題目)	学校飼育動物を活用した中学校理科指導に関する基礎的研究 とべ動物園のネコ科動物に関する教材開発 愛媛大学城北キャンパス内の樹木を活用した環境教育プログラムの開発 野菜栽培の取り扱いと教材化に関する研究 STEM教育を目指したエネルギー変換効率を求める実験教材の開発 小学校における水の凝固に関する実験方法の再検討 教員志望学生の観察・実験に対する意識に関する研究 形質遺伝に関する教育内容分析と実験教材の検討

音楽教育領域

教員名	安積 京子（あさか きょうこ）
専門分野	「ピアノ演奏法」と「ピアノ指導法」 ピアノ演奏における豊かな表現方法及びその豊かなピアノ演奏をするための指導法も研究しています。ピアノを含めたアンサンブル（ピアノとヴァイオリン、ピアノと管楽器、2台ピアノ）や声楽の伴奏も行っております。特にドイツ歌曲における魅力的なピアノ伴奏法を探求しています。
担当している主要な授業	ピアノ（1）（1～4年生・後期）、ピアノ（2）（2～4年生・前期）、 ピアノ演奏研究（3年生・前期と後期）、ピアノ伴奏法（2）（3～4年生・後期）、ソルフェージュ（2～4年生・後期）
卒業研究に関する情報	ピアノ演奏法やピアノ指導法に興味を持って卒業研究を取り組む受講生を歓迎します。卒論テーマの例は、「バロック音楽の魅力～J.S.バッハについて～」、「ああ、お母さん、あなたに申しませう（キラキラ星変奏曲）～モーツァルトの音楽～」、「シヨパンが求める音楽とは何か～華麗なる大円舞曲から～」、等、論文と演奏の両方からアプローチします。 卒論ゼミ決定までに履修しておくことが望ましい授業は以下の3つです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ピアノ（1）（1～4年生・後期） ・ ピアノ（2）（2～4年生・前期） ・ ピアノ演奏研究（3年生・前期と後期）

教員名	井上 洋一（いのうえ よういち）
専門分野	音楽デザイン：作曲・編曲や音響作品の制作に関する研究。 音楽科教育：小・中・高等学校における音楽の授業に関する研究。特に、音楽デザイン分野と関連した、音楽づくりや創作指導の在り方、音楽科におけるICT機器の活用法等について研究している。
担当している主要な授業	【2年生前期】音楽デザイン基礎（2） 【2年生後期】音楽デザイン（1） 【2年生前期】音楽デザイン（2）・音楽科教育法Ⅲ
卒業研究に関する情報	作曲や編曲に興味がある人、オリジナル曲をつくって表現したい人、または創作指導について関心がある人を歓迎します。卒業研究の発表方法としては、オリジナル作品の作曲・演奏、創作指導法に関する論文が考えられます。基礎的な作曲理論を身につけるために、中等コース1年生対象の「音楽理論・作曲法（編曲法を含む）」（前期）、「音楽デザイン基礎（1）」（後期）を履修しておくことが望ましい。2年生からでも受講可能です。 【指導学生の卒業研究題目（音楽文化コース含）】 ○作品「子どものための和風ソナタ」「ビジュアルミュージックによる組曲」 ○論文「中学校音楽科におけるタブレットPC活用の実践的研究」

教員名	市川 克明 (いちかわ かつあき)
専門分野	管楽器 (ホルン)・音楽学 (西洋音楽史) ①管楽器演奏の実践 (実技) ②西洋音楽史 (論文)
担当している主要な授業	器楽基礎 (1年生前期)・器楽アンサンブル (1～4年生) 管楽器 (1) (2) (1年生後期～4年生後期 重複履修可) ソルフェージュ (2年後期～ 重複履修可) 音楽史 (2年後期・3年前期) 部活動指導実践論 (1年生後期)
卒業研究に関する情報	○ 卒業研究の内容 <実技・論文> ① 管楽器演奏 ② 鑑賞教材としての西洋音楽史 ○ 卒業研究にあたって ★管楽器演奏を卒業研究として行える実技能力を有すること。 ★音楽について知識とモチベーションを有すること。 ● 管楽器を卒業研究に選択する場合には、2年次末までに直接相談すること。 器楽アンサンブルを履修しておくことが望ましい。

教員名	木村 勢津 (きむら せつ)
専門分野	声乐 ① イタリアバロック時代の声楽曲、近代歌曲や日本歌曲について歌唱法を研究しています。 ② 発声法、歌唱法、歌唱指導法等の研究を行っています。研究の対象は幼児から後期高齢者の方まで幅広い年齢層方です。 ③ 生涯を通じて学び、歌うことを楽しむ姿勢で「歌」を愛好できる人材の育成を目指して、理論と演奏を往還する研究を行っています。 ④ 地域社会における音楽文化の振興という観点から、アウトリーチ活動にも積極的に関与しています。
担当している主要な授業	声乐 (1) (2年生前期) / 声乐 (2) (2年生後期) ●1年次の声乐基礎履修 声乐 (3) (3年生前期) / 声乐 (4) (3年生後期) / 声乐研究 (3年生通年) 声乐 (4) (歌唱指導法を含む) (4年生前期)
卒業研究に関する情報	独唱を中心とする声乐演奏や音楽教育、音楽文化 (声乐領域) に関する論文の指導を行っています。近年の論文指導は、「小学校の鑑賞授業における生演奏の有用性について」(演奏付帯)、「イメージを基盤としら歌唱指導—小学校3年生の授業自薦を通して」、「猪本歌曲と小学校教科との連携の可能性」等です。

教員名	楠 俊明（くす としあき）
専門分野	音楽科教育 合唱
担当している主要な授業	音楽科教育法 初等音楽科教育法 合唱
卒業研究に関する情報	★卒業論文テーマ 音楽科教育について （小学校、中学校、高等学校全般） 合唱について （合唱指導、コンクール、コーラス部、選曲等）

教員名	福富 彩子（ふくとみ あやこ）
専門分野	鍵盤楽器領域 ①ピアノ演奏の実践 ②学校教育におけるピアノの活用
担当している主要な授業	器楽基礎（1年生前期） ピアノ（1）（2）（1年生後期・2年生前期 重複履修可） ソルフェージュ（2年後期 重複履修可） ピアノ演奏研究（3年生通年） ピアノ伴奏法（3年生前期 重複履修可）
卒業研究に関する情報	○ 卒業研究の内容 <実技・論文> ① ピアノ演奏の実践に関して（奏法や表現法の探究・ピアノ曲の研究等） ② 学校教育におけるピアノの活用に関して（伴奏・弾き歌い・和音付け・ピアノを用いた指導法等） ○ 卒業研究にあたって 卒業研究をピアノ演奏で行う場合には、基礎的な知識・技能を有するか、実技演習を積み上げていくことが求められます。ピアノに関わる科目（ピアノ（1）、ピアノ（2）、ピアノ演奏研究）の受講をおすすめします。

美術教育領域

教員名	佐々木 昌夫（ささき まさお）
専門分野	彫刻 空間を意識しながら、土・木・鉄・紙等の物質を素材にした彫刻を研究します。彫刻制作をとおして、見た目の美しさや面白さを越え、「この世界とは何か」、「人間とは何か」という答えの無い問いについて考察していきます。
担当している主要な授業	彫刻基礎演習（1年生後期） 彫刻1（2年生前期） 彫刻2（3年生後期） 彫刻3（4年生前期）
卒業研究に関する情報	決して自分の思い通りにならない土・木・鉄・紙等の物質と、地道に向き合います。また、物事をいつもとは異なる視点で見ます。 彫刻基礎演習と彫刻1は、ぜひとも履修しておくことが望ましいです。制作スペース・道具等を考慮すると、定員は1学年3名程度です。 卒業研究では作品を制作し、卒業研究展での学外発表を行います。

教員名	千代田 憲子（ちよだ のりこ）
専門分野	デザイン （美術と社会や生活をつなぐ分野です） デザイン分野の諸問題に対してデザイン提案による造形的な解決をはかります。また、創造性と計画性を重視したわかりやすく魅力的な視覚伝達表現を追求します。
担当している主要な授業	デザイン基礎演習（1年生前期） デザイン概論（1年生後期） デザイン1（2年生後期） デザイン2（3年生前期） デザイン3（4年生前期）
卒業研究に関する情報	ゼミ決定までにデザイン基礎演習（1年生前期）またはデザイン概論（1年生後期）の履修が望ましく、実技のため、デザイン1-3を順次履修するとスムーズに卒業研究に臨めます。卒業研究は卒業研究展として学外発表を行います。 [卒業研究テーマ例] ・小学生の景観意識を高めるボードゲーム ・地域の伝統工芸へのデザイン提案 ・テキスタイルデザインと造形

教員名	原田 義明（はらだ よしあき）
専門分野	<p>工芸（鑄金）</p> <p>工芸は、素材や技法により様々な分野（金工・陶芸・ガラス等）に分かれています。いずれも素材の特性や技法を有効に活用し、表現の可能性を追求する分野と言えます。私が専門とする鑄金は、熔融金属の流動性を利用し、複雑・精緻な形状も一度に鑄造成形することができ、数ある金属加技術の中でも、最も応用範囲の広い分野です。</p>
担当している主要な授業	<p>工芸基礎演習（1年生前期） 工芸1（2年生前期）</p> <p>工芸2（3年生後期）</p> <p>工芸3（4年生前期）</p>
卒業研究に関する情報	<p>工芸は、素材と技法、そして表現が密接に関連して成立している分野と言えます。自分の手を存分に使った“ものづくり”には、それ独自の楽しみがあります。卒業研究を通して工芸することの喜びを体験してみませんか。</p> <p>工芸基礎演習、工芸1を履修していることが望ましいです。</p> <p>制作スペースや設備・道具等の都合から、受入人数は3名程度とします。</p> <p>また卒業研究では作品を制作し、卒業研究展での学外発表を行います。</p>

教員名	上原 真依（うえはら まい）
専門分野	<p>美術理論・美術史</p> <p>過去の美術作品を探究します。一体なぜ作られたのか、作られた社会的・歴史的背景はどんなものだったのか、作者がどんな工夫をしたのかなど、美術作品から、様々な情報を読み解きます。</p>
担当している主要な授業	<p>美術理論・美術史基礎演習（1年生前期）</p> <p>西洋美術史（2年生前期）</p> <p>日本美術史（2年生後期）</p>
卒業研究に関する情報	<p>■卒業研究は論文を作成し、卒業研究展でポスター発表を行います。</p> <p>■有名な美術作品を見たときに、「一体この作品は何を表しているのか」「何故名作とされているのか」「きれいじゃないのに、どこがいいのか」などと感じたことはありませんか。美術作品は情報の宝庫、少し見方を変えるだけでイメージから多様なメッセージを読み解くことが出来ます。主観や印象のみに頼るのではなく、的確な観察と分析に基づいて作品と向き合うことで、新たな作品の見方を獲得しませんか。</p> <p>■美術作品をきちんと観て分析するには、多くの作品を見ること、そして何より、実物を自分の目で見て考えることが必要です。美術理論・美術史基礎演習（1年生前期）では、作品の見方の基礎を学ぶだけでなく、見学実習で実際に作品を観察することが出来ますので、是非早い目に受講してください。</p>

教員名	秋山 敏行（あきやま としゆき）
専門分野	美術教育 子ども一人一人で異なる「どうしてそのように描くのか、つくるのか（造形的な活動の意味や理由）」を探究すること。さらに、それらを保障するために必要な教師の姿（振る舞いや言葉づかいなど）について探究すること。
担当している主要な授業	造形表現の指導法（1年生前期） 初等図画工作（2年生前期） 初等図画工作科教育法（3年生前期）
卒業研究に関する情報	① 絵を描いたりものをつくったりするときに、子ども一人一人でその意味や理由が異なること（どうしてそのように描くのか、つくるのか） ② 「造形遊び」をはじめとした図工・美術の「楽しい！」を保障するために必要な教師の姿（振る舞いや言葉づかいなど） こうしたことに興味を持ち、自分でも図工・美術を楽しみながら卒業研究に取り組もうとする方を歓迎します（迷っている方も大歓迎！上手・下手は関係ありません！）。その際、可能な限り小学校等の現場にも伺いたいと考えています。また卒業研究は論文を作成し、卒業研究展にてポスター発表をします。 なお「初等図画工作（2年次後期）」など履修しておくことが望ましいです。

教員名	福井 一真（ふくい かずま）
専門分野	美術科教育 「工作に表す」活動を「つくりたいものをつくる」活動として捉え直し、子どもの「つくる行為」に着目した研究を行っています。近年では、小刀を使用することの教育的意義や、子どもの「つくりながら考える」という造形プロセスについての研究を発表しています。この他にも木を素材とした作品制作などを行っています。
担当している主要な授業	初等図画工作（2年生後期） 初等図画工作科教育法（3年生前期）
卒業研究に関する情報	■卒業研究は論文を作成し、卒業研究展でポスター発表を行います。 ■研究内容については、図画工作科やものをつくることに関して問題に思っていることなど、各自の興味関心のあることから深めていきます。 ■自分でもものつくりをしてみたい／「楽しい」図工を実践したい／図工で使用する道具の専門的な知識や技術を学びたいなど、図画工作科について興味関心のある方もそうでない方もお待ちしております。 ■是非、2年次後期の初等図画工作を受講してください。

教員名	石井 浩一（いしい こういち）
専門分野	スポーツ史：体育・スポーツを歴史的に考えます スポーツ人類学：スポーツを文化人類学の方法論で考えます
担当している主要な授業	初等体育（２年生前期） スポーツ文化論（２年生後期）
卒業研究に関する情報	スポーツを歴史的な視点から考えたり、文化人類学の視点から考えたりします。歴史はわかると思いますが、文化人類学がわかりにくいと思います。わかりやすいテーマとしては、スポーツとアイデンティティ（エスニシティ、ナショナリティ）、スポーツの身体技法、スポーツとジェンダー、スポーツのわざ言語、スポーツと文化化・教育などがあります。

教員名	糸岡 夕里（いとおか ゆり）
専門分野	体育科教育学 学校体育にかかわる内容をはじめ、運動やスポーツ、幼児期の運動遊びについてあらゆる観点から探究する学問です。また、よりよい体育授業を実現するための教師教育のあり方についても研究します。
担当している主要な授業	初等体育科教育法，初等体育，保健体育科教育法Ⅰ（２年生前期） 保健体育科教育法Ⅲ（３年生前期）
卒業研究に関する情報	『学校から体育授業なんてなくなってしまえっ！』 → 同じ思いをする子どもがいなくなるように一緒に研究しませんか？ 子どもの心に寄り添うことのできる先生になれると思います。 『運動を通して子どもの愛顔を広げたい！』 → 体育授業を中核にした教育について一緒に研究しませんか？ 愛顔いっぱいの学級経営ができる先生になれると思います。 誰もが達成感を味わえる体育授業を実現できる力を身に付けていくことを期待します。 卒業し、教員生活をスタートした際に、 『卒業研究大変だったけど、今、一番役に立ってるなあ』 と思えるよう一緒に研究していきましょう！！

教員名	上田 敏子（うえだ としこ）
専門分野	メンタルヘルス，保健科教育 心身の健康のうち，特に心の健康の維持・増進に関する研究を行っています。 また，保健体育科教員が担う「保健」の授業について，いかに興味深く，かつ印象に残る授業を実践できるかを研究しています。
担当している主要な授業	教育保健（2年生前期） 保健体育科教育法2（2年生後期） メンタルヘルス（3年生後期）
卒業研究に関する情報	卒業研究では，以下のいずれかに興味をもって取り組める学生を歓迎します。 1）児童生徒の心身の健康増進やストレスマネジメントに関する内容 2）保健の授業研究や教材づくりに関する内容 平成28年度 卒業研究のタイトル 「女子サッカーのポジションにおける気質の特徴に関する研究」

教員名	田中 雅人（たなか まさと）
専門分野	体育心理学・スポーツ心理学 運動学習、学習理論、指導法、フィードバック、イメージ、知覚・認知、状況判断・予測、動機づけ、パーソナリティなど、運動や体育・スポーツを心理学的側面から探究します。人が、「観て（知覚して）、考えて（判断して）、動く（行動する）」過程とその背景を明らかにしようとする研究分野です。
担当している主要な授業	体育心理学（2年生前期） 初等体育（2年生前期） 保健体育学実習（2年生後期） 保健体育測定評価（3年生後期） サッカー（1／2年生後期） スキー（2／3年生後期）
卒業研究に関する情報	卒業研究では，次のような領域についての研究を行います。 1）運動や体育・スポーツに関わる心理学的研究 2）ボールゲーム、スノースポーツに関わる研究 3）運動遊び、ジュニア期のスポーツ指導に関わる研究 また、研究方法は、実験、質問紙調査、心理テスト、観察（行動分析）、面接など様々です。興味をもって研究を継続するためには、「自分がやっている研究が一番面白い」と思える研究テーマとテーマに接近するための研究方法を見つけだすことが大切です。身のまわりで起こっている現象を注意深くみつめ、面白い研究テーマに出会えることを期待しています。

教員名	日野 克博（ひの かつひろ）
専門分野	体育科教育学 幼稚園から大学までの学校体育（特に体育授業）を対象に研究しています。体育では何を教えるのか…カリキュラム研究、体育授業でどのように教えるのか…授業研究、どんな体育教師が求められているのか…教師教育研究など、よい体育授業を実現するための諸条件を明らかにしようとする研究分野です。
担当している主要な授業	健康の指導法（1年生前期） 初等体育科教育法（2年生前期） 初等体育（2年生前期） 保健体育科教育法1, 3, 4（2年生前期, 3年生前期, 3年生後期）
卒業研究に関する情報	子供の愛顔（えがお）がいっぱいの体育授業を構想・実践してみませんか？ 卒業研究では、運動プログラムや教材・教具を開発したり、子供の動きやつまづきを分析したり、優れた教師の教授技術を分析したりするなど、よりよい体育授業の実現を目指して、多様な視点からアプローチします。 過去の卒業研究では次のようなテーマがあります。 現場ファースト！ <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の運動遊びの実態 ・ 〇〇型ゲームの教材の有効性 ・ 運動が苦手な子供の特徴 ・ 体育授業と学級経営との関係 ・ 障がい者スポーツの教材化 ・ 体育授業におけるICTの活用 ・ 体育専科教員への期待と課題 ・ 運動部活動の教育的価値 など

教員名	福田 隆（ふくだ たかし）
専門分野	バイオメカニクス、運動学、バレーボール、ゲーム分析 【その説明】身体運動やスポーツを理論的・科学的にとらえ、体育・スポーツ指導の現場で実践的な効果を追求する。身体の解剖学的内容、神経系（制御系）、出力系（筋力）、基礎的な力学を含む。
担当している主要な授業	運動学・バイオメカニクス（1年生前期） 初等体育（2年生前期） 球技3バレーボール（2年生後期）
卒業研究に関する情報	【指導可能な内容】 スポーツや基本動作のバイオメカニクス的研究（動作分析等）、スポーツのゲーム分析・戦術分析、スポーツの指導方法、トレーニングに関する研究、バレーボールに関する研究。 【受け入れ条件】 実験を行うにあたっては、チームプレーが必要である。時間外、他の施設（体育館、山越、競技会場）での活動もあります。 【学生へのメッセージ】 受け入れ条件は特にありませんが、競技力向上を目指す人、運動・スポーツ指導に関心がある人を希望します。研究をするための指導・助言は行いますが、自分自身に厳しく、妥協をせずに自主的に行動できる人を期待します。

技術教育領域

教員名	森 慎之助（もり しんのすけ）
専門分野	技術科教育（ものづくり，エネルギー変換，情報），材料加工（金属・木材・プラスチックの加工） 【説明】中学校技術分野の教材開発と授業実践を専門としています。複数の領域内容が学習可能な融合教材の開発と授業実践を主な研究テーマとしています。
担当している主要な授業	技術科教育法 1（2年生前期），技術科教育法 3（3年生前期），木材加工法 1（1年生後期），木材加工法 2（2年生前期），木材加工演習（3年生前期），金属加工法 1（2年生前期），金属加工演習（2年生後期）など
卒業研究に関する情報	小中連携教育が推進されています。これまで小学校で理科の電気に関する学習，社会科の工業に関する学習，国語のプレゼン学習等をテーマに卒業研究を行っています。中学校技術分野と小学校の各教科の関連性を考えながら教材開発と授業実践を行いたいと考えています。教材の開発・作製には学生自らのものづくりを必須とし，児童らに体験型の学習を通して，学習内容が理解しやすいものを目指します。このような教材開発と授業実践に取り組んでみたい学生を歓迎します。技術科教育法，木材加工法，金属加工法，栽培技術学，機械工学，電気電子工学，情報等の履修を推奨します。

教員名	大西 義浩（おおにし よしひろ）
専門分野	機械，技術科教育，プログラミング，ものづくり，エネルギー，など 【説明】コンピュータを使ってものを動かす「制御工学」という分野を専門としています。機械を安全安心にしたり，生活を便利にしたり，エネルギーを効率化したりするためのキーテクノロジーです。制御方法の開発や，関連分野の教育方法や教材開発などを研究テーマとしています。
担当している主要な授業	機械工学 1（1年生後期）機械工学 2（2年生前期）機械工学演習（2年生後期），技術科教育Ⅱ（2年生後期），技術科教育Ⅳ（3年生後期）など
卒業研究に関する情報	2020年から小学校においてプログラミング教育が必修化されます。小学生にプログラミングを「誰が」「何を使って」「どのように」教えるかはこれからの課題です。卒業研究ではプログラマーが使うようなプログラミング言語ではなく，小学生にも理解可能なプログラミング環境を使って各教科との関連も考えながら教材と教育方法の開発をしたいと考えています。また，コンピュータの中だけで完結するプログラミング教材ではなく，プログラミングによって何らかの「もの」が動き，子どもにとって成果が分かりやすい教材の開発を目指します。このあたりのことに取り組んでみたい人を歓迎します。 機械工学，電気電子工学，情報とコンピュータ等の履修を推奨します。

家政教育領域

教員名	金子 省子（かねこ せいこ）
専門分野	保育学 乳幼児期・児童期の子どもと子どもを取り巻く物・人の環境について、歴史的背景をふまえて現状を捉え、課題解決について考えていきます。
担当している主要な授業	保育学（2年生前期） 保育学演習（3年生前期） 子ども・家族福祉（3年生後期）
卒業研究に関する情報	過去の卒業研究を大きく分類するとおおよそ以下のようですが、これらに限定せず、学生の問題関心をもとに具体的にテーマを決定していきます。 1. 児童文化（絵本・おもちゃなど）・あそび 2. 発達環境とジェンダー 3. 親の養育意識・行動 4. 地域子育て支援 5. 青年の将来像と子ども観・ジェンダー観

教員名	藤田 昌子（ふじた あつこ）
専門分野	家庭科教育，生活経営学，家族関係学
担当している主要な授業	初等家庭科教育法（2年生後期） 家庭科教育法Ⅲ／Ⅳ（3年生前期／後期） 生活経営学（2年生後期） 家族関係学（3年生前期）
卒業研究に関する情報	家庭科は，生活と関係が深いため，学んだことを児童の発達や生活実態の理解など教育実践につなげることができます。「家庭科教育」関連の卒研では，どのような授業を行えば，児童が健康で文化的な生活を営み，課題を解決しながら豊かな生活を創ることができるかを検討します。「生活経営学」「家族関係学」関連の卒研は，社会環境の変化をふまえて個人や家族の生活の営みを考えることを通じ，個人や家族の課題とともに社会の課題についても探究します。 （卒業研究の例） ・家庭科教育で求められる被服製作の指導に関する研究 ～小学生のボタンつけ技能と実践の実態調査を基に～ ・小学校家庭科におけるジェンダー教育 ・『人間らしく働く』ための学習に関する研究 ・格差社会における住生活のマネジメントに関する学習の研究 ・小学生と高齢者との世代間交流の実態と課題～余裕教室を活用した複合施設に着目して～ ・大学生のアルバイトにおける労働環境の実態と課題 ・マンガからみる家族～ジェンダーに着目して～ ・ヒットラブソングにおける女性観・男性観の変遷 ※男女関係なく皆が“生活”しています。本研究室では男女ともに卒研に取り組んでいます。 ※まずは授業を受けて，自分が思い描く卒研の内容と合っているか検討することをお勧めします。

教員名	眞鍋 郁代 (まなべ いくよ)
専門分野	被服学 人間の衣服について総合的に研究する学問です。衣服や布地を設計・製作するためのデザインの要素, 生地から衣服を作る造形の実践技術, 衣服の保管や手入れについての科学的な知識, さらに, 繊維から糸を, 糸から生地を作る繊維の知識についてなど, 幅広い領域を扱います。
担当している主要な授業	被服構成学及び実習1 (2年生前期) 被服構成学及び実習2 (2年生後期) 衣生活論 (3年生前期)
卒業研究に関する情報	・ 服育 (廃棄衣料のアップサイクル, ファッションセラピーなど) の提案 ・ 衣服や繊維製品の印象評価に関する研究 家庭科を通して衣服について知ることで, 私たちは日常を快適に過ごしたり, さらにすてきな気持ちになれるように工夫することができるようになります。布をつくる材料 (素材) のことから勉強して, 伝統的なものづくりのよさを発見したり, 地球の環境を大事にしたり, みんながわくわくするような衣生活について一緒に考えてみませんか?

教員名	岡本 威明 (おかもと たけあき)
専門分野	(1) 食物学 (食品学、栄養学を含む) (2) 食品衛生学 (食品添加物や食中毒など) (3) 食品免疫学、食品生化学 (抗アレルギーや免疫増強など)
担当している主要な授業	食物学 (1年生後期) 食品生化学実験 (2年生前期) 食生活の安全と健康 (3年生前期)
卒業研究に関する情報	【卒業研究テーマ】 (1) 食品成分の機能性や安全性に関する研究 (細胞培養実験や動物実験系) (2) 家庭科教育 (食分野) における実験授業の開発に関する研究 (3) 機能性表示食品の開発を目指した基礎研究 (4) 大学生の消費行動 (食) 調査を生かしたお城下活性化対策の検討 【教員からのコメント】 卒業研究を4年間の大学生活の集大成として主体的・積極的に取り組もうと考えている学生、研究室を盛り上げてくれる学生、大学に来るのが好きな学生、実験の好きな学生、今の自分をさらに成長させたい学生諸君、お待ちしております！！ ～～す！！

教員名	竹下 浩子（たけした ひろこ）
専門分野	家庭科教育 消費者教育 持続可能な開発のための教育（ESD）と環境教育
担当している主要な授業	生活学概論（1年前期） ESD 概論（2年前期） 初等家庭科教育法（2年後期） 消費者教育（3年前期）
卒業研究に関する情報	<p>教育を通して、持続可能な社会の構築に貢献することをめざす研究に興味があります。特に生活から地球の問題を捉えることを研究テーマの題材としています。これまでの卒業テーマは以下のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チョコレートを題材にした ESD の授業開発 ・ ソーラークッカーによる ESD の授業開発 ・ 食品ロスを題材とした高校生、大学生への授業開発 ・ 地域における ESD 拠点としての公園の事例調査 <p>民家についての調査、または教材開発</p>

英語教育領域

教員名	池野 修 (いけの おさむ)
専門分野	英語教育学 英語教育の5W1H—「誰が(who)」「何を(what)」「いつ(when)」「どこで(where)」「なぜ(why)」「どのように(how)」—に関する知識ベースを構築する学問領域です。例えば、世界で用いられている様々な英語を教科書の中でどう扱うか、どの文法知識を明示的に教えるか(逆に自然に習得されるのに任せるか)などはwhatに関する問題であり、どのように発音指導を行うのが効果的か、単語を学習するために有効な方略は何かなどはhowに関する問題です。
担当している主要な授業	英語科教育法1(2年生前期) 英語コミュニケーション演習4(2年生後期) 初等外国語の指導法(3年生前期)
卒業研究に関する情報	英語教育に対して興味・問題意識を持っている皆さんと卒業研究に取り組むことを楽しみにしています。テーマ例をいくつかあげると次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校外国語における文字指導のあり方 ・ 児童の音韻意識を高める教材の開発 ・ 外国語活動における教師と児童の英語使用の分析 ・ 小学校「外国語(活動)」と中学校「英語」の連携に関する調査

教員名	秋山 正宏 (あきやま まさひろ)
専門分野	言語学, 英語学, 日本語学 英語, 日本語といった個別言語に働く規則性を探ります。そして個別言語の特定の現象に見られる規則性から人間の言語一般に見られると考えられる性質を抽出します。
担当している主要な授業	「英語学概論」(2年生前期), 「英語学1」(2年生後期) 「英語学2」(3年生前期), 「日英語比較論」(3年生後期)
卒業研究に関する情報	・ 語, 句表現, 文といった言語の表現単位の構造/成り立ちや意味に興味のある学生さんを歓迎します。 ・ 4年生前期開始時点で、「英語学概論」, 「英語学1」, 「英語学2」, 「日英語比較論」の4科目全てを単位取得済みであることが望ましい。

教員名	D.R. Bogdan (ボグダン デイビッド)
専門分野	My Masters and Ph.D. research was focused on comparative/contrastive linguistics, especially with respect to discourse analysis in Slavic languages. However, here at the undergraduate level, I am concentrating on ICT & Cross-Cultural Communication in my teaching, so any students I supervise are to have already taken the ICT-related classes I teach by the time they enter the Fall Semester of their junior year, and they should be able to use the Mac OS environment to produce educational materials.
担当している主要な授業	ICT (Fall Term, sophomore year); ICT (Spring Term, junior year); Culture & Composition (Spring Term, junior year); Culture & Composition (Fall Term, junior year) (There is some variance with the content and titles.) Important! Just looking at the course titles themselves is not enough. It is very important for students to read the syllabi first to understand the course content and the type and amount of work required. (As a warning, these classes all require a large amount of work outside the classroom.)
卒業研究に関する情報	Students need to have experience using Macs and the applications needed to produce ICT supplementary materials (often in video form). They also need to be conversant in webpage design. The undergraduate courses taught by the instructor are intended to provide this experience. The ICT/Mac Lab is to be used for supervised research sessions.

教員名	立松 大祐 (たてまつ だいすけ)
専門分野	英語教育学 英語の4技能を統合した言語活動を研究しています。現在は、リテラチャー・サークルの手法を日本の教室に取り入れるための研究を行っています。
担当している主要な授業	英語科教育法2 (2年生後期) 英語科教育法3 (3年前期) 英語コミュニケーション演習1 (1年生後期)
卒業研究に関する情報	2020年にはすべての小学校3・4年生で外国語活動が始まり、5・6年生は英語の4技能を学習することになります。英語教育が大きく変わるタイミングであり、小学校教員に求められることも変化していきます。 できるだけ卒業後の授業実践に役立つ研究のお手伝いができればと思っています。これまで積み上げられた小学校での英語教育の実践から学び、問いを立てられるようにしておいてください。新しい時代を切り拓いていくみなさんと卒業研究に取り組むことを楽しみにしています。